

ものの、所属の状況に応じて繁閑がある。長時間労働の解消に向けて、必要に応じて応援体制などを敷きながら対応している。

藤居議員：国ではテレワークの活用が推奨されているが、区役所のテレワークの実施状況について伺いたい。

金指総務課長：利用できる端末が少ないことや、区役所の業務の特性上窓口業務が多く、出勤を必要とする業務が多いことから、実態としては多くないが、可能な範囲でテレワークを実施している。

藤居議員：機材の増大希望など、何かできることがあれば言ってほしい。

望月議員：緊急事態宣言が発令されたことによって、勤務体制の変化はあるのか。

中野区長：1回目と2回目の緊急事態宣言では若干状況が異なる。1回目は、市を挙げて極力在宅勤務で対応した。一方、2回目は、福祉保健課の応援に区を挙げて取り組むことを重視し、応援辞令を出すなどして、新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでいる。区としても臨機応変に対応して、過重労働にならないように、また、区民の皆様から心配の声が上がらないように、濃厚接触の方や発生届が出された方への連絡が遅くならないように留意しながら取り組んでいる。

望月議員：区役所は区民に対して業務を継続し、サービスを続ける必要がある。ソーシャルディスタンスを守る取組など、区役所の職務環境についても改善できるところは行い、感染のリスクを避け、安心して業務を行えるようにしてほしい。

福祉保健センターの業務の状況は、濃厚接触の追いかけ方の変更などにより多少軽減しているのか、それともワクチン接種などによりかえって忙しくなっているのか伺いたい。

林福祉保健センター長：積極的疫学調査の重点化や聞き取り調査の仕方を工夫した調査時間の短縮など、業務の軽減を図って対応している。

【新型コロナウイルス感染症のワクチン接種対応について】

草間議員：新型コロナウイルス感染症のワクチン接種対応について、健康福祉局のワクチン接種調整等担当との調整など、区の関わり方はどのようなになっているか。

中野区長：健康福祉局と具体的な対応を一緒に検討していくことになる。

区役所の役割は、会場の確保等になるが、区の施設の候補先など具体的な調整をしていく。

草間議員：区民への情報発信の仕方などをぜひ区長会等で検討してほしい。

【生活困窮者の状況について】

望月議員：新型コロナウイルス感染症の影響により、経済的に厳しくなっている方が出てきている。生活相談は影響を受けているのか。

和田生活支援課長：生活困窮者に実施している住居確保給付金については、今年度当初の第1波の緊急事態宣言のときにかかなり急増したが、最近は落ち着いている。生活保護の申請数については、12月までの計上で、昨年度は158件、今年度は141件となり、若干減っている。特に大きく増加している状況ではない。

望月議員：今後、増加する可能性もあるため、しっかりと寄り添い、区役所としてできることはやってほしい。

【地域支援の種（たね）事業】

藤居議員：コミュニティ応援アドバイザー派遣事業では、どのような方法で人を通じた支援の方策へとステップアップさせるのか。また、NPO法人情報誌の発行では、どのくらいの間隔で、どのくらいの部数を発行するのか。

篠崎地域振興課長：コミュニティ応援アドバイザー派遣事業では、健康づくりやIT関係などの地域が抱える課題について、自治会から区役所が相談を受けたときに、適切な人材を派遣する取組としてステップアップさせる。また、NPO法人情報誌は、地域資源である約100のNPO法人について、日頃の活動の様子を冊子にし、年3回、1回8,000部程度、年間で2万4,000部を発行する予定である。

藤居議員：非常に要の事業、取組であるため、ぜひ進めていってほしい。

【まちづくり総合調整事業】

望月議員：区民文化センターニュースは、いつ頃、どのように発行する予定か伺いたい。

川島区政推進課長：区民文化センターについては、令和5年度開館に向けて調整を進めている。設計が終わった段階など、折々のタイミングで発行し、区民の皆様に情報提供をしていくように考えている。

望月議員：具体的にはいつ頃になるか。

川島区政推進課長：現在、設計については、設計会社や文化観光局等と進めており、まだ具体的に示せる状況ではないため、分かり次第情報提供させていただく。

望月議員：横浜市生活交通バス路線（市営バス 318 系統）について、乗車率等について地域の方々への説明をしていると思うが、必要な生活交通が失われると地域住民は困ってしまう。具体的な状況について伺いたい。

川島区政推進課長：都筑区に生活交通バス路線は 5 路線あるが、もともと乗車する方が少なく、道路局から補助金が出されている路線である。他区では路線の変更があり、一部減便等があったと聞いている。都筑区についても、見直しに際しては、地域の皆様に丁寧に説明をさせていただきながら対応するように交通局に依頼している。減便の対象となる地域の方々には、しっかりと説明をさせていただきながら進めていきたい。

望月議員：コストがかかることであるため、一筋縄ではいかないと思う。しかし、利用者からみてマイナスを減らしていけるような再編をすること、地域交通をどのように維持していくかがとても重要であるため、どのようにすれば残せるか、できるだけ本当に必要な部分が維持できるような政策をお願いしたい。

長谷川議員：区内には、生活交通バス路線がないと駅まで出られないような住民も多く、単純に減便とされては困る。区役所には、住民に寄り添いながら進めてもらうように交通局へ強く要望してもらいたい。

川島区政推進課長：区内には駅まで出づらいエリアもあり、そういったエリアにお住まいの方に寄り添った対応を区としてもしっかりとやっていきたい。市営バス 318 系統についても、周辺の方々にご利用いただけるように区役所の方で周知したり、町内会の皆様とも連携したり、しっかりと取り組んでいきたい。

【メイドインつづき推進事業】

草間議員：新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金により、飲食店は助かっているところもある。一方で、製造業の企業の状況について、個別には相当厳しいと聞いているが、どのような状況か伺いたい。

川島区政推進課長：厳しい企業とそうでもない企業、どちらもある状況である。厳しいとおっしゃる企業については、経済局ものづくり支援課などの支援メニューの紹介や相談会の場を設けるなどの対応をしている。

草間議員：企業によってそれぞれ異なると思うが、メイドインつづきの企業がネットワーク化して、このような危機の際にどのように相乗効果を上げて助け合っていくことが重要だと思う。業種間のネットワークをどのように構築していくか、事務局である区政推進課でも挑戦してほしい。

【街のにぎわいづくり事業／イベント全般】

望月議員：区民まつりなどのイベントの開催可否の判断については、どのように行っているか伺いたい。

中野区長：今年度の区民まつりの例では、都筑区ふるさとづくり委員会が一旦縮小開催という方向性を出した上で、感染状況に応じて中止もあり得るという方針を出したが、夏頃に開催は難しいという判断をした。来年度についても、新型コロナウイルス感染症に関しては、ワクチンの接種状況もあると思うが、感染状況によって病院がひっ迫することがあれば、同様の判断も予測しながら、都筑区ふるさとづくり委員会の皆様と、状況に応じて適切に判断していきたい。他の様々なイベントについても、予算では開催を見込んで計上しているものもあるが、執行に当たっては、適宜そのときの感染状況を踏まえて、その場で判断をしていくことを繰り返さざるを得ないと考えている。

望月議員：区長がおっしゃるとおり、その場の状況で適宜判断をしてほしい。

自治会町内会活動やハマロードサポーター事業、愛護会活動など、例年のように活動できていないところが多いと思う。管理の問題がきちんとされているかなど考えを伺いたい。また、ある程度継続してイベント等を実施しないと、ノウハウや人材の継承が難しいと思うが、地域の盛り上げや地域に必要なイベント活動をどのように残していくか、考えを伺いたい。

中野区長：感染症対策として3密を避けることを、区民の皆様をお願いしているため、活動にはさまざまな制約が出ている。その結果、ノウハウについて継承しにくいという声を聞いているが、自治

会で夏祭りを行うなどのノウハウを区役所が継承させることは難しい面もある。それぞれの地域でまた開催できるように、マニュアルづくりなどを進めていただければありがたい。一方で、区役所から地域に対する補助金については、この時期だからこそ、防犯のための予算に使うなど、工夫しながらこの時代に合った使い方をしていただければありがたいと思っている。

望月議員：ハマロードサポーター事業や愛護会活動についても伺いたい。

仲澤都筑土木事務所長：ハマロードサポーター事業や愛護会活動については、基本的には屋外活動のため、他の屋内活動に比べると制約は少ないが、それなりの制約はある。それらをサポートするために、来年度も予算計上させていただいたが、活動が停滞しないように支援していく。

望月議員：地元の声をしっかりと聴いて対応してほしい。

【未来につなぐオリンピック・パラリンピック事業】

草間議員：いわゆる交流イベントは開催できない状況と思われる。もしオリンピック・パラリンピックが中止になったとしても、ボツワナ共和国や英国水泳の各代表選手と都筑区の子どもたちがオンラインで繋がる取組を、区主体でやってほしいと考えているが、状況について伺いたい。

篠崎地域振興課長：英国水泳代表チームが横浜国際プールで練習をする予定であったため、今年度は英国チームを応援するようなバナーを作成し、商店街、都筑区商店街連合会に協力していただき、掲出する取組を行った。ボツワナについては、従来から茅ヶ崎小とボツワナの児童画交流展をやっており、先日区民ホールで開催した。また、ZOOMで繋ぐ取組も行っている。来年度のオリンピック・パラリンピック開催については、まだ不明な状況であるが、適宜交流を続けていきたい。

草間議員：オリンピック・パラリンピックの開催がどうなるかはわからないが、もし中止になったとしても、せっかくここまで機運を盛り上げたので、何らかの形でできるようにし、子どもたちの思い出にしてほしい。

【都筑 国際交流プログラム】

藤居議員：コミュニティ作りの支援の実施について、どのような形でどのように広めていくのか。

篠崎地域振興課長：区内に多くの外国人の方が居住しているが、防災関係の情報が細かいところまで伝わっていないケースがある。そこで、5か国語の防災ノートを配布することで、地域のコミュニティの中でも活用できるようにと考えている。イベント等でも配布をするような発想で考えていく予定である。

藤居議員：重要な取組のため、ぜひ頑張ってもらいたい。

【災害にそなえる自助・共助の推進事業】

藤居議員：新型コロナウイルス感染症にも対応した濃度で消毒液の作り方シールの作成をするとあるが、どのくらいの濃度で作成するのか。

山本福祉保健課長：消毒に使用できる次亜塩素酸ナトリウム溶液について、新型コロナウイルス感染症対策では0.05%の濃度となる。500ミリリットルのペットボトルではキャップ1杯分の次亜塩素酸ナトリウムが必要となる。このステッカーをペットボトルの外側に貼り付け、量って使用してもらうことを目的に作成・配布している。

藤居議員：風水害時に開設する避難場所でのペットの保管場所設置のための物品を備蓄するとのことだが、こういったものを想定しているか。

森田生活衛生課長：ペット対策の備蓄品については、ペットケージを置く場所で使用するブルーシートや清掃用具を購入する予定である。

藤居議員：引き続き、ペット対策については、ぜひ取り組んでほしい。

草間議員：地区によっては、全員が避難所に避難するという想定は難しくなっている。それにも関わらず、基本的に避難所に避難するよう訓練をさせる意味は、もはや破綻していると思う。画一的な避難の在り方は改善したほうが良いと思うが、考えを伺いたい。

金指総務課長：地域によっては、家屋の被害がそれほどないと想定される場所もあると思う。新型コロナウイルス感染症が広まっている時代においては、避難所に行くことが必ずしも全ての人にとって正しい避難行動とは言えない時代になっているため、在宅避難ができる人はできるだけ在宅避難をしてもらうように周知をしている。また、マイタイムラインのように、それぞれの

	<p>事情に応じた避難行動を日頃から考えていただくことを支援していくことが、今後大事になっていくと思う。今後も地域の方と連携をして、対応していきたい。</p> <p>草間議員：在宅避難などを含め、柔軟に対応をしてほしい。避難所のペット対策として、ペットケージを増やすことも重要ではあるが、区ごとに合わせた運用をし、無理なく是正してほしい。</p> <p>【危機管理対策推進事業】</p> <p>望月議員：避難所を開設した際の対応はどのように考えているか。</p> <p>金指総務課長：新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所運営については、総務局危機管理室から新型コロナウイルス感染症を踏まえた地域防災拠点の開設・運営のポイントが出されている。受付時には非接触型の体温計で検温し、万一 37.5℃以上の発熱者がいた場合に備え、体育館以外の部屋も借りられるように学校と調整している。新型コロナウイルス感染症の症状が疑われる方については、別の部屋に避難していただくような対応になると思う。</p> <p>望月議員：具体的なことを想定して、その時に困らないように進めてほしい。</p>
<p>備 考</p>	